

釧路教育研究センター研究グループの活動

今回の「釧路教育」では、令和4年度の子ども支援研究グループ、郷土読本・地域学習研究グループの各活動について紹介いたします。

子ども支援研究グループ

今年度、子ども支援研究グループでは「釧路市内各校における子ども支援に関する課題を踏まえ、いじめ、不登校への対応、個に応じた指導の進め方等について、調査、研究し、釧路市における子ども支援の在り方について実践を蓄積し、その成果を発表すること」を目的とし、研究を進めています。

本研究グループは小学校教員4名、中学校教員3名の計7名で活動しています。これまで、各校の不登校児童生徒の実態、要因分析、学校支援体制について情報を収集し、交流してきました。また、他地域の先行研究の分析も進めてまいりました。

研究する中で表出してきた課題は、担任教員が一人で責任を抱えてしまうことで、不登校対応が機能しなくなることでした。そこで、現在本研究グループでは、「担任教員が一人で抱え込まないために」というテーマを掲げ、日常から組織的に対応できるよう、学校全体で心がけておくことについて整理しています。また、実際に釧路市内の小中学校において、どのような対応事例が行われているのかを調査しています。

今後調査したものをまとめ、市内の小中学校に還元していきたいと考えておりますので、その際はぜひご活用ください。

子ども支援研究グループリーダー 大場 公博(昭和小学校)

郷土読本・地域学習研究グループ

郷土読本・地域学習研究グループでは、小学校3・4学年の社会科で活用する郷土読本『くしろ』の編集・改訂を中心に活動しています。今年度は、主に4つの改訂作業を進めています。

1つめは、写真資料(P7)の変更です。教科書のねらいを再検討した上で、担当者自らが何度も現地に行き、写真を撮影してきました。

2つめは、新旧の写真資料がより比較しやすいようにレイアウト(P67)を変更しました。北大通の新旧写真が上下に縦並びだったものを、左右横並びに変更することで、より比べやすくしました。

3つめは、絵カード(P71)の新規追加です。3学年の教科書では、4単元より「道具調べカード」「絵カード」が掲載されています。教科書のねらいを踏まえ、担当者が絵を描き、それを基にカード化しました。紙幅が限られているため、1ページのみの追加となる点をご理解ください。

4つめは、年表のスリム化(P206以降)です。阿寒町、音別町の釧路市合併(2005年)後の年表を一本化しました。

上記以外にも、グラフデータの更新、文言の修正などを進めてきました。今後も教科書とのつながりを意識しつつ、地域の情報が活用できるよう改善に努めていきます。

ロイノート資料箱の中には、郷土読本に関わるデータがたくさん入っています。「地図記号クイズ」「都道府県パズルクイズ」のサイト案内などもあります。ぜひご活用ください。わたしたちの取組が、先生方の日々の授業に少しでもお役に立てれば幸いです。


郷土読本・地域学習研究グループ委員 坂本 優一(美原小学校)



| 戻る | 04 郷土読本・地域学習研... | 名前順 |
|----|------------------|-----|
| | 00.郷土読本の活用について | > |
| | 01.郷土読本PDF | > |
| | 02.郷土読本資料データ | > |
| | 03.学習プリント&小テスト | > |
| | 04.動画 | > |
| | 05.音の道具 | > |
| | 06.アイスの道具 | > |
| | 07.釧路空襲被災地 | > |
| | 08.指導の手引き | > |
| | 09.配当時数表 | > |
| | 10.おすすめサイト 一部NEW | > |

【研修講座報告(学習指導・開発研究グループ)】

| 研修講座名 | 実施日 | 場所 | 受講者 |
|-------------|-----------|------------|-----|
| 一人一台端末活用の充実 | 令和4年9月15日 | 釧路教育研究センター | 27名 |

| 講座の内容 | 【受講者からのアンケートより】 |
|---|--|
| <p>学習指導・開発研究グループでは、今年度「一人一台端末の活用による情報活用能力の育成」を重点とし、児童生徒の情報活用能力の向上に向けた体系表とその授業実践について研究を進めてきました。</p> <p>研究の一環として、釧路市内の先生方を対象に体系表に基づいた授業実践例を学べる機会としてミニ研修講座を開催しました。</p> <p>当日は、ロイロノートの活用方法を始め、Google Jamboard や Google スライドといった Google Workspace for Education のアプリを用いた授業実践についても、実際の授業を体験してもらうことを通して研修を深めました。</p> | <ul style="list-style-type: none"> • 基本的な操作方法から、単元を通して効果的に活用する実践事例の紹介など、大変勉強になりました。ありがとうございました。 • 自校ではロイロノートを使う学級が多く、Google Workspace についてはあまり活用されていないので、見地を広げる良い機会となりました。ありがとうございました。 • わかりやすい資料、また、丁寧に教えていただき感謝しております。なかなか活用できていないので、機会を見つけて活用していきたいです。色々な機能があるので、ロイロノートも Jamboard も、もっと研修する機会があると嬉しいです。  |

説明・体験の内容


まず、本研究グループリーダーより、情報活用能力について説明をしました。大切なのは、教師はもちろん、児童生徒が端末を活用できるようになることであり、活用の主語は「子ども」であるという説明をしました。

その後、ロイロノートの音声、動画、画像の投稿やテストの機能などについて説明をし、演習では、受講者が児童生徒の立場となり、Google Jamboard と Google スライドを用いて、小学校4年社会科の課題設定や中学校3年英語科の言語活動に取り組みました。

演習の中では、「共有の方法」や「共同作業」について体験したり、「コメント機能」を使ってお互いにアドバイスや感想を伝え合うことで学びを深め合う体験をしたりするなど、それぞれの授業の中でどのように活用できるかを実践の中で学ぶ機会となりました。

今回は、少人数のミニ研修であったので、参加者はわからないことや疑問に思ったことを気軽に聞くことができ、終始和やかな雰囲気で行うことができました。

今後も、情報活用能力の育成に関わる疑問等があれば、釧路市教育委員会教育支援課を通じて、釧路教育研究センター学習指導・開発研究グループにお気軽にご相談ください。



相談室だより



教育相談員 小関 としみ・武山 昇

「担任の先生が良くしてくれるので、ありがたくて足を向けて眠れない」。この言葉は、お子さんが1年以上登校できずに悩んでいる保護者からのものです。長期間にわたって定期的に家庭訪問を継続して、親子を支えようと努めている先生方の話を耳にして、学校の努力が伝わってきます。10月末までの相談件数は、「不登校」が15件で、全体の58%を占めています。この数字は昨年度同時期を若干上回る数字になっています。

今年度10月末時点での相談案件の特徴は、「中学生に関わる相談の増加」です。小学生と中学生の件数の割合が前年度は1:2、今年度は1:3に増加しています。10月末の相談件数は26件で前年比4件増です。内訳は「特別支援」が3件、「学校不信」「家庭教育」「学校生活」が各2件、「いじめ」「部活動・同好会」が各1件でした。特に、いじめ案件については、面談による相談を受理した直後から、市教委と学校が継続的に連携して解決に向けた対応を行っています。

「不登校」の相談内容を分析してみると2つのケースが浮かび上がってきます。学級や部活動での小さなできごとや誰かの一言がきっかけになる場合と、学校生活という枠組みの中に自分の居場所が見つけれずに登校しなくなる場合があります。相談を聞き取るうちに、不登校の子どもたちの心の逃げ場として浮かび上がってきたのが「ゲームやSNS, YouTube等への依存」です。家庭で過ごしているほとんどの時間をこれらの視聴に費やしているのです。成長期の大切な時期に学校に行かず、学習することや、体を動かすことをやめてしまった我が子を見守る保護者の不安が伝わってきます。

相談室としては、各学校、教育支援課及び関係機関等と、一人一人の子どもとその保護者をつなぐ窓口として、今後も役割を果たしていきたいと考えています。

道東地区研究所員研修会報告

8月26日(金)、道東地区研究所員研修会が行われました。コロナ禍ということで、昨年度に引き続き、オンラインでの実施となりました。釧路地区は、下記の研究専門委員会(昨年度の名称)による実践発表を行いました。また、他市町村との実践交流も行われ、非常に実りのある研修会となりました。

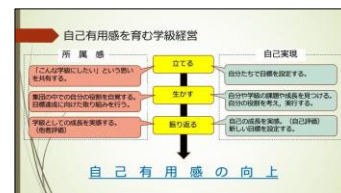
- 学習指導研究専門委員会(現:学習指導・開発研究グループ)
「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくり

「主体的・対話的で深い学び」の具体的な子供の姿を提示し、その実現のための教師の関わりや、実践例を紹介しました。



- 生徒指導研究専門委員会(現:子ども支援研究グループ)
学級経営に生かす「学級目標ハンドブック」

自己有用感を育む学級経営を実現するための学級目標の在り方について提示し、市内小・中学校の実践例を紹介しました。



特別講演会を終えて

7月23日（土）、釧路市生涯学習センターまなぼとと幣舞大ホールにて「特別講演会」が実施されました。

秋田県大館市の高橋教育長をお招きし「ふるさとキャリア教育」を根幹に据えた大館市の教育について、「教育のイーハトーヴを求めて ふるさとキャリア教育が奏でる“学びの交響学”」という演題でご講演頂きました。

「人を変えられるのは教育だけ」を理念に、10年をかけて取り組んできた「おおだて型授業」や「百花繚乱作戦」をはじめ、様々な取組について具体例を交えながら大変わかりやすくお話しいただきました。

参加者からは「釧路で生きていきたいと思う子どもを育てていきたいと強く思った。」「目先の学力向上だけではなく、長期的な学び方や学ぶ喜びを育てることが大切だと感じた。」といった声が寄せられました。



学習指導・開発研究グループリーダー 早川 将光（景雲中学校）

釧路教育研究センター 「教育講演会」

『脳を知り，脳を育み，脳を鍛える』

講師 東北大学加齢医学研究所 所長 川島 隆太 氏

釧路教育研究センターでは、今年度、「脳トレ」で有名な、東北大学加齢医学研究所 所長「川島隆太」氏にご講演いただきます。

たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

- 日 時 令和5年2月4日（土）
13：30開演（13：00受付開始）
- 場 所 釧路市生涯学習センターまなぼとと幣舞 大ホール
- 問い合わせ先 釧路市教育委員会教育支援課学校指導担当
0154-23-5189

